

放射線に関する教職員研修及び出前授業実施事業

放射線教育コアティーチャー研修会
(全国研修会)のご案内

東日本大震災により避難している児童生徒に対する偏見、差別等が起きている現状や、
今なお放射線に対する不安や混乱、風評被害等の課題があることを踏まえ、
放射線教育のさらなる普及が求められています。

平成29年に改訂された学習指導要領においては、現代的な諸課題に関する
教科等横断的教育内容の1つとして、放射線教育が取り上げられています。

このような放射線教育を取り巻く変化を念頭に、本事業では、

放射線教育コアティーチャー研修会(全国研修会)を開催することといたしました。

本研修会では、放射線教育を熱心に取り組まれている先生方を対象に、
コアティーチャーとして、それぞれの地域や全国へ向けて発信いただけることを期待して開催するものです。
多くの方々にご参加いただけますよう、ご高配のほどよろしくお願い申し上げます。

開催時期 令和5年12月26日(火)～12月27日(水) 2日間

開催場所 科学技術館(東京都千代田区北の丸公園2-1)

対象者 日本全国の小・中・高等学校、特別支援学校等の指導主事又は教職員等
対面：20名 オンライン：40名

参加条件	人数	条件	受付
対面	20名	放射線教育実践事例報告書(A4・1枚)提出 ※フォーマットはホームページ(http://radi-seminar.jp/)よりダウンロードください。	書類選考あり
オンライン	40名	なし	先着順

参加費 無料 ※旅費・宿泊費は当財団規定によりお支払いいたします。お食事は各自ご負担をお願いいたします。

受付 Googleフォーム(<https://forms.gle/xieyfe3rsbYaarkp7>)、メール(mext-seminar@jsf.or.jp)、
FAX(03-3212-8596)のいずれかにてお申込みください。

締切 令和5年12月3日(日)

その他 イベント終了後、科学技術館内を無料で見学いただくことができます。
12/27(水)13:00～17:30は、科学技術館で「放射線教育発表会(放射線教育に関する
教材発表、パネルディスカッション等)」を開催しています。ぜひご参加ください。



スケジュール(予定)

12/26(火)	対面	オンライン
12:45～13:00 受付	○	
13:00～13:10 挨拶	○	○
13:10～14:00 講演「環境システムと放射線」 東京大学環境安全本部 教授 飯本 武志	○	○
14:10～15:00 講演「廃炉に向けた課題：トリチウムと放射線」 茨城大学大学院理工学研究科 教授 田内 広	○	○
15:10～16:10 ショットガン・プレゼンテーション*1 (3分×20名)	○	○
16:20～17:40 グループディスカッション①*2 「実践事例の共有と今後の展開」	○	

*1 対面参加者は提出いただいた放射線教育実践事例報告書をもとに1人3分のプレゼンテーションをしていただきます。

*2 グループディスカッション①、②をもとにプレゼン発表いただけます。

12/27(水) ※対面のみ
8:45～ 9:00 受付
9:00～ 9:20 放射線副読本の内容について
9:20～10:20 グループディスカッション②*2 「放射線授業プランを考える」
10:20～11:50 プレゼン発表 講評 滋賀大学大学院教育学研究科 教授 藤岡 達也
11:50～12:00 まとめ、アンケート
12:00 解散

*終了時間は前後する場合があります。

*受講内容を録画、録音することはできません。

問合せ先

〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園2-1 公益財団法人 日本科学技術振興財団 人財育成部
放射線に関する教職員研修及び出前授業事務局 電話:03-3212-8504(代) FAX:03-3212-8596
e-mail:mext-seminar@jsf.or.jp



<http://radi-seminar.jp/>

FAX 03-3212-8596

放射線教育コアティーチャー研修会(全国研修会)〈申込書〉

申 込 日	年 月 日		
学校等所属名			
申 込 者	役職名		フリガナ
			お名前
郵便番号	□□□□-□□□□		
住 所			
電 話 番 号	()	F A X 番 号	()
メールアドレス	@		
参 加		参加希望	放射線教育へのこれまでの取り組み
	対面	<input type="checkbox"/>	放射線教育実践事例報告書(A4・1枚)をご提出ください。 ※フォーマットはホームページ(http://radi-seminar.jp/)よりダウンロードください。
	オンライン	<input type="checkbox"/>	※実践事例がある場合はお書きください。 校種 () 学年 (年生) 教科 () 内容 ()

※ 対面とオンラインの両方に☑いただけると、対面が定員(書類選考を含む)となった場合にオンライン参加に登録となります。

〈個人情報の取り扱いについて〉

- 公益財団法人日本科学技術振興財団 個人情報取扱部門責任者 木本 徹が適正に管理いたします。
- 個人情報の利用目的については、放射線に関する教職員研修及び出前授業を運営するために使用いたします。
上記以外の目的で個人情報を利用させていただく場合には、別途その旨をご連絡致します。
- ご提供いただいた個人情報を第三者に提供または委託、共同利用することはありません。
- 個人情報のご提供は任意ではありますが、必要な情報をご提供いただけない場合は、
上記利用目的の遂行に支障が生じる可能性がありますので、ご理解のほどよろしくお願い致します。
- ご提供いただいた個人情報に関して、利用目的の通知、開示、及び開示の結果、
当該情報が誤っている場合に訂正または削除のお申し出をいただいた場合には、速やかに対応させていただきます。
開示等の求めについての手続きは、当財団ウェブサイト「個人情報の開示等の求めに関する手続き」をご参照ください。

公益財団法人日本科学技術振興財団 総務室 総務グループ

〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園2番1号 TEL: 03-3212-8484

当財団は上記1から5までの項目についてご本人のご同意がいただけた場合にのみ個人情報を収集いたします。

放射線教育実践事例報告書

タイトル			
学校名	●●県立●●校	教員名	科学 花子
学年	年生	教科	
使用した教材、教科書等	授業内で使用された教科書や実験器具、参考にされた教材などございましたらご教示ください。		
キーワード	(例) 人体影響、自然放射線、福島復興、風評 等		

1. 目的

指導計画、授業のねらい、背景等について記入してください。

2. 内容

実践した授業内容について記入してください。図表、写真等については、適宜挿入してください。

3. まとめ

実践した感想、受講した児童生徒のアンケート結果等について記入してください。
また、今後の展望もお願いします。

注) 研修会では、こちらの実践事例報告書をもとに、1人3分のプレゼンテーションをしていただきます。

実践事例報告書の作成方法

実践事例報告書は、見出し(「1. 目的」「2. 内容」「3. まとめ」)の3項を漏れなく記載し、以下について留意しながら作成してください。小見出しについては任意に指定してください。

- 1) 用紙サイズはA4とし、余白を上下左右25mm設定してください。ページ数は1枚です。2枚以上とならないようご注意ください。
- 2) 使用するフォントは、「BIZ UD ゴシック」を基本として下さい。(UDフォントがなければ、ゴシックを使用してください。)
- 3) 1行目の「放射線教育実践事例報告書」は変更しないようにお願いします。
- 4) タイトル、学校名、教員名、学年、教科を明記し、実践事例のキーワードを、枠の中に、11ポイントで記述してください。
- 5) 本文は、上部の表と本文との間に空白行を1行空けた後から、段数を2段で10ポイントで記述してください。
- 6) 見出し(「1. 目的」「2. 内容」「3. まとめ」)は、下線書式を設定してください。
- 7) 図表及び写真等を本文中に挿入する場合は、鮮明なものを使用してください。また、著作権や肖像権等の許可を得たものを使用してください。
- 8) 原則PDFファイルで提出ください。